

北アジア・中国	朝鮮	日本
<ul style="list-style-type: none">1500年、北アジア、元朝の後裔タヤン・ハーンが、チャハル部族を中心にモンゴル再統一をすめる。 1502年、中国、明初以来の行政規定を集大成した「大明会典」（「正徳会典」）180巻が、徐溥らの編纂　によって完成する。 1505.6.19、中国、明朝の第11代皇帝武宗正徳帝（14）が即位する。宦官が政治を左右し、反乱や戦乱の絶えない治世となっていく。 1507.9.21、中国、明の武宗正徳帝が、宮中に豹房をつくる。 1508年、中国、王守仁(王陽明、36)が、左遷されていた貴州省の竜場で、陽明学成立の契機となる「竜場の大悟」を行う。 1510.11.23、中国、宦官の圧政に対し、劉兄弟を中心とした農民反乱が起こる(劉六・劉七の乱)。 1510年、中国、詩人の李夢陽ら「正徳の七子」が、「文は秦漢、詩は盛唐」への回帰を主張する古文辞の運動を起こし、文壇に活気を与える。 1517.1、中国、王守仁(王陽明)が江西地方で十家牌法の制度を実施し、流賊の鎮圧にのりだす。 1517.10、中国、ポルトガルの使節トメ・ピレスが広州上陸を強行する。 1517年頃、中国、明を代表する画家、文徵明・唐寅・仇英らが活躍する。 1519.7.10、中国、江西省の寧王朱宸濠が反乱を起こす。 1521.6.1、中国、明の世宗嘉靖帝と閣臣らのあいだで父王を祭る儀式をめぐる対立が起こる(大礼の議)。 1521年、中国、紫禁城が宮城となる。 1523.5.26、中国、日本の大内氏と細川氏の送った遣明使が寧波で衝突する。 1523年頃、中国、明で羅貫中の「三国志通俗演義」が刊行される。 1527.9、中国、明が琉球の使者を通じて日本の将軍足利義晴(16)に和を求めたのに対し、義晴は勘合符と金印を要求する。 1528年、中国、明朝の政治家で陽明学の祖王守仁(王陽明、56)が江西省で没する。以後、陽明学は左派,右派,中間派の3派に分裂する。 1539頃、中国、「水滸伝」100回本が刊行される。 1540年、中国、明で、銀納を中心とする賦役制度の一条鞭法が実施される。 1542年、中国、明で外国との航行を禁じる海禁が、再び施行される。これがかえって密貿易をよび、後期倭寇の活動が激化する。 1547.6.18、中国、日本の守護大名大内氏が派遣した遣明船が定海に到着する。この船が1550年に帰国し、勘合貿易が終わる。 1548年、中国、明の官吏（しゅがん）(56)が、月港で倭寇の密貿易の摘発を行う。処置が厳しすぎたため地元の有力者に排斥される。 1549年、中国、中国系倭寇の王直の一群が、浙江沿岸地方を略奪する。 1549頃、中国、五彩とよばれる絵付け磁器(赤絵)がさかんにつくられる。 1550.9.21、中国、モンゴルのアルタン・ハーンが北京を包囲する。 1552.12.3、中国、ザビエルが、中国上陸を目前にして広東沖の上川島で没する。 1553.4、中国、中国人の海賊王直が江蘇・浙江の沿岸を襲撃する。 1556.1.21、中国、甘肅省と陝西省のあいだで大地震があり、83万人あまりの死者が出る(華県地震)。 1557.11年、中国、中国系倭寇の頭目、王直が浙江総督の胡宗憲に捕らえられる。 1557年、中国、ポルトガル人が澳門の居住権を得る。 1562年、中国、浙江総督の胡宗憲が倭寇対策のために作らせていた海図「籌海図編（ちゅうかいずへん）」が完成する。前年の「日本図纂（ずさん）」とともに、中国の日本研究に大きく貢献する。 1567年、中国、陸慶帝が海禁政策を緩め限定的に外国貿易を認める。 1571年、中国、明朝政府と内モンゴルのアルタン・ハーン(64)が和約を結び、国境で定期市を開き、交易を行うことで合意する。 1572年、中国、明朝の第14代皇帝神宗万曆帝が9歳で即位し、張居正(47)が皇帝補佐の首輔となり、改革を始める。 1578年、中国、医師の李時珍が、「本草綱目」を著す。 1579.2.17、中国、万曆帝の首輔、張居正(54)が、各派知識人の拠点である書院の全国的な閉鎖を命じる。 1580.12.16、中国、明の宰相張居正が、丈量(検地)を完了する。 1582年、中国、イエズス会士マテオ・リッチが、澳門（マカオ）に到着する。 1583.2、中国、ビルマ王ナンダバインの軍が、雲南地方に侵攻する。 1583年夏、中国東北地方、女真族のヌルハチが拳兵する。 1587年、中国、張居正らによって大増修の編纂が着手された明代の総合的行政法典「大明会典」の一つ、「万曆会典」全228巻が頒布される。 1588年、中国東北地方、女真族のヌルハチ(29)が、建州三衛の諸族を統一し、マンジュ国と称する。 1590年、中国、思想界の異端者、李贄(李卓吾)が「焚書」を刊行する。 1592年春、中国、明に帰化したモンゴル人のボバイが、寧夏で反乱を起こす。 1592年、中国、「西遊記」世徳堂本が刊行される。 1592年頃、中国、数学者の程大位が、算術についての総合的著作「算法統宗」全17巻を著す。 1592年頃、中国、万里の長城の修築が完了する。 1593.12.27、台湾、豊臣秀吉(57)が高山国(台湾)に原田孫七郎を使者として送り、貢納を要求する。しかし、高山国はまだ統一された国家ではなかったため要求は実現されなかった。 1594年頃、中国、長編通俗小説「金瓶梅」が刊行される。 1594年頃、中国、中央アメリカ原産のさつまいもが中国に伝わる。 1595.1.22、中国、小西行長の使者内藤如安が、明の万曆帝と会いし、豊臣秀吉の示した強圧的な7か条の和平条件を隠して講和交渉を行う。 1596年、中国、明の万曆帝が宦官を派遣して、商税の増徴や鉱山の特別徴税を行う(礦税の禍)。 1597年、中国、四川省の播州で、楊応竜が、反乱を起こす。 1599年、中国東北地方、満州族のヌルハチ(40)が、モンゴル文字の首を借りて満州文字をつくる。	<ul style="list-style-type: none">1504年、朝鮮半島、李朝王の燕山君（28）が、再び新興官僚の士林派を弾圧し、儒学者・金宗直の弟子数十人を処刑する(甲子の土禍) 1506.9、朝鮮半島、朴元宗らが、2度の土禍を行った燕山君（30）を廃位して中宗を立てる。中宗は即位後すぐに、中宗反正とよばれる儒教道徳ののっつった政治の回復を図り、士林派を登用する。 1510.5.11、朝鮮半島、富山浦と齋浦で対馬島民が暴動を起こす(三浦の乱)。 1511年、朝鮮半島、中国中心の世界地図「天下輿地図」が編纂される。 1512.10、朝鮮半島、李朝が三浦の乱以来、途絶えていた日本との関係を回復する(壬申約条)。 1516年、朝鮮半島、鑄字都監が設けられ、銅製活字の製造が始まる。 1519年、朝鮮半島、中宗に登用された士林派の趙光祖(37)が急進的な儒教主義政治を行おうとしたため、中宗と勲旧派により処刑され、士林派が弾圧される(己卯の土禍)。 1543年、朝鮮半島、周世鵬が朱子の白鹿洞書院にならって儒学校、白雲洞書院を設立する。 1544年、朝鮮半島、倭寇が慶尚南道の蛇梁鎮に侵入する(蛇梁の倭変)。 1545年、朝鮮半島、前年に亡くなった中宗の跡を継いだ第1継妃の子、仁宗(30)が没し、第2継妃の子明宗(12)が即位する。これをきっかけに仁宗と明宗の外戚の反目が激化し、それに士林派の儒学者たちがまきこまれて乙巳の土禍が起こる。 1555年、朝鮮半島、李朝の基本法典「経国大典」を増補・注解した「経国大典註解」が刊行される。 1560年、朝鮮半島、李朝の文臣で儒者の李退溪が陶山書院を建てる。 1562.1、朝鮮半島、民衆反乱の指導者林巨正が処刑される。 1575年、朝鮮半島、士林派は1565年に政権を掌握したが、金孝元(43)に代表される改革派の東人と、沈義謙(40)ら保守派の西人に分裂し東西の党争が始まる。 1589.10.7、朝鮮半島、豊臣秀吉の使者である対馬領主の宗義智(21)が、李朝の宣祖(37)に謁見し、朝鮮通信使の派遣を求める。 1591年、朝鮮半島、東西に分裂した士林派のうち改革派の東人が、西人への対応策をめぐる穏健派の南人と強硬派の北人に分裂する。 1592.6.4、朝鮮半島、豊臣秀吉が2月14日に朝鮮經由で明への出兵を発令し、この日、小西行長率いる第1軍の艦隊が、釜山攻撃を開始する(壬辰倭乱・文祿の役)。 1592.8.14、朝鮮半島、李舜臣率いる朝鮮艦隊が、閑山島沖で豊臣秀吉の派遣した日本水軍に大勝する。 1593.6、朝鮮半島、明の援軍や義兵の決起をうけ、朝鮮軍が日本軍を各地で破る。日本軍は釜山に後退し、明軍との和議に入る。 1597.4.7、朝鮮半島、日明講和交渉の決裂で豊臣秀吉派遣の日本軍が、再び朝鮮に侵入する(丁酉倭乱、慶長の役)。 1598.12.16、朝鮮半島、水軍統制使李舜臣(53)が、南海島付近で日本の島津義弘軍と会戦し戦死する(露梁の海戦)。	<ul style="list-style-type: none">1500年、日本、琉球国王尚真が八重山諸島の有力首長オヤケ・アカハチとホンカワラを討つ。 1506頃、日本、日本水墨画を確立した雪舟等楊が没する。 1512年、日本、西ヨーロッパで流行した梅毒が日本にも到達する。 1515.8.2、日本、蝦夷に侵略的に定住していた和人に対してアイヌが騒起するが、和人の蠣崎光広(60)が、アイヌの首長を謀殺し、反乱を鎮圧する。 1524年頃、日本、今川氏親(51)が駿河国で検地を行う。 1528.8、日本、堺の医師、阿佐井野宗瑞が、明から渡來した「医書大全」を刊行する(日本最初の刊行医書)。 1529.5.4、日本、和人に対して反乱を起こしたアイヌ首長タナサカシらが、蠣崎義広の命によって謀殺される。 1531年、日本、琉球の首里王府が、琉球歌謡集「おもろさうし」第1巻を完成する。 1533年、日本、博多の貿易商、神谷寿禎が、明や朝鮮との交易から得た知識をもとに、石見の大森銀山で銀の新しい精錬法、灰吹き法を成功させる。 1535.8.20、日本、相模の北条氏綱(49)が駿河の今川氏輝(22)に加勢して、甲斐の武田信虎軍を破る。 1539.5.7、日本、大内氏の遣明船3隻が、五島の奈留島を出発する。6月8日に寧波に入るが、寧波の乱の影響で明側は厳しい対応をとる。 1541.7.7、日本、甲斐の守護武田信虎が息子の晴信(信玄、20)に追われ、駿河の守護今川義元を頼る。 1543.9.23、日本、種子島にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本にはじめて鉄砲を伝える。 1549.8.15、日本、イエズス会宣教師ザビエルが、鹿児島に上陸する。 1549年、日本、狩野元信が「四季花鳥図屏風」を描く。 1557年、日本、ポルトガル人宣教師ルイス・デ・アルメイダ(32?)が豊後の府内(現大分市)に病院を完成し、日本ではじめて西洋医学による外科手術を行う。 1560.6.24、日本、織田信長(26)が桶狭間の戦いで今川義元(41)を倒す。 1560.2、日本、イエズス会宣教師ガスパル・ヴィレラが、将軍足利義輝(24)により、京都での布教を許可される。 1562.7.16、日本、平戸でポルトガル人と仏教徒の対立が激しくなったため、肥前の領主大村純忠(29)が横瀬浦を開き、この日、ポルトガル人が入港する。しかし翌年には、この港も炎上し機能を失う。 1568.10.16、日本、織田信長が足利義昭を奉じて入京する。 1568年、日本、イエズス会士トルレスが、肥前の領主大村純忠の許可を得て、長崎に御やどりの聖母教会(宝性寺)を建立する。 1571年夏、日本、肥前の領主大村純忠(38)が、長崎にポルトガル船を入港させて貿易を誘致し、島原や大村など6町を建設して交易港とする。 1573.8.15、日本、将軍足利義昭(36)が織田信長(39)に降伏し、室町幕府が滅亡する。 1575.6.29、日本、織田信長・徳川家康連合軍が、設楽原で武田勝頼軍を破る(長篠の戦い)。 1579.7.25、日本、島原半島にイエズス会東インド巡察師のアレッサンドロ・ヴァリニャーノ(40)が、到着する。 1582.2.20、日本、大友、大村、有馬の3大名の名代としてローマ教皇に謁見するための少年使節一行9名が、ポルトガル船に乗り長崎を出航する(天正少年遣欧使節)。 1582.7.1、日本、京都の本能寺に宿泊していた織田信長が明智光秀に急襲され自害する(本能寺の変)。 1584.5.18、日本、徳川家康と織田信雄軍が、三河へ侵攻を図る羽柴秀吉軍を小牧長久手の戦いで破る。 1587.7.24、日本、豊臣秀吉が、キリシタン宣教師に国外退去を求める追放令を発布する。 1588.8.29、日本、豊臣秀吉が刀狩令と海賊禁止令を発布する。 1590.7.28、日本、天正遣欧少年使節団が長崎に帰還する。 1590.12.3、日本、8月21日に到着した朝鮮通信使の黄允吉、金誠一らが京都で秀吉に会見する。 1592年、日本、豊臣秀吉が長崎や堺、京都の商人に、台湾や東南アジア諸国への渡航を許可する朱印状を与える。 1593年、日本、天草のイエズス会が、ローマ字による日本語訳書「イソボ物語」を出版する。 1594.7.27、日本、琉球王尚寧(30)は、薩摩の島津義久(61)が要求した朝鮮侵攻の兵糧貢納を拒絶する。 1596.10.19、日本、スペイン商船サン・フェリペ号が、土佐に漂着する。 1596.10.23、日本、明の万曆帝からの国書を見た豊臣秀吉が、和平7か条案に返答がないことを知り再出兵を決める。 1597.2.5、日本、長崎で、キリスト教徒26人が処刑される。 1596年頃、日本、宣教師などが伝えたヨーロッパの学問や絵の技法、衣類や嗜好品、食料品などの文物が庶民のあいだに広まる(南蛮文化)。 1598.9.18、日本、豊臣秀吉(62)が、伏見城で病没する。
北アジア・中国	朝鮮	日本